

まち(市)を育てるはるの道

登地 靖徳 議員

答 産業の活性化を図る



登地 次に掲げる3点は、日本全国の地方又は過疎地域の共通の課題・悩みである。

- (一) 空き家の増加と人口の流出または減少
- (二) 荒廃農地の増加といのししの増加
- (三) 雇用場所の減少と「まち」の魅力づくりの欠如

市全体の家屋数と空き家の数は。

市長 市内の家屋数は1万6,111棟、空き家は2,700棟で空き家

率は17%。空き家は、増加傾向にあります。

登地 現状の人口と10年後の人口は。

市長 25年4月1日の市内人口は、2万5,629人。把握しているデータでは、7年後の平成32年の推計人口は2万3,276人となっています。

登地 市全体の農地面積と荒廃農地の面積は。

市長 耕作放棄地が増加しており、この解消のため農地流動化奨励金・耕作放棄地対策事業補助金の補助事業により、22

24年度で約34haの荒廃農地が有効利用されています。さらに、約8haの農地にオリブ苗木約4千本を定植されています。

登地 24年度いのししの捕獲数は。

市長 833頭捕獲し、対策としては、新たに箱罾25基作製し、総数50基を捕獲班に貸与し、捕獲を実施しています。

登地 雇用場所の減少と「まち」の魅力づくりの欠如について対策は。

市長 「商工業等振興資金」の支援とともに、商工会と連携をしながら地域産業の活性化を図ります。

また、農業・水産業を活用した新たな事業の創造に力を入れ、海と山に囲まれた自然豊かな環境を観光資源として市外に発信していきたい。

三高航路に夜間便の運航を

登地 宇品発三高行きは21時発が最終便で、それ



▲宇品～三高航路

市長 三高航路を含めた西能美航路は、公共交通協議会において、12月を目標に再々編案を進めていくこととしており、その中で協議を進めています。

以降の便が無く、住民は大変に困っている。更に遅い便があれば、住民の幸せ度が増すものと、三高地区全自治会をあげて要望をしている。夜間便の実現をお願いする。



答 外国人支援会議を設置

外国人就労の支援策は

野崎 剛睦 議員

野崎 去る3月に、市内で発生した中国人実習生が2人を殺害する凶悪事件は、カキ養殖業者のみならず市民を恐怖に陥れ、また全国にも悪いニュースが流れました。カキ養殖業や鉄骨・造船業の労働環境の厳しい産業は、中国や東南アジア諸国から、労務の提供に支えられる面が高い。本市の特産であるカキ養殖のカキ打ち人は、多くの外国人に支えられています。こうした悲惨な事件が再発しないために、市の支援策を問う。

市長 亡くなられた方に、心からご冥福をお祈り申し上げます。市内には、約50人の外国人が居住し、そのうち約30人が

技能実習生です。この実習制度は、開発途上国の経済発展を担う人材育成を目的とし、本市の地場産業への労務の提供として役立っています。これまで市は、外国人居住に「防犯」や「ゴミ分別と出し方」をガイドしてきましたが、今回の事件をきっかけに「外国人支援会議」を庁内に設置し、外国人が暮らしやすくなる支援策や地域で外国人との関わりを深める交流イベント等を検討していきます。

野崎 事件以来、外国人への借家・アパートの賃貸が一段と難しくなっている。一般市民が外国人に対し偏見をなくす施策を考えていただきたい。

市長 本市に住民登録した外国人は、一般の市民として変わることなく健康保険等も適用され、また納税義務も生じます。外国人を協働のまちづくりの中に巻き込んで地域の人と交流が深まれば良いと思っています。

野崎 外国人と言葉の壁が高いが。
市長 ボランティアの養成を進めるが、そうした取り組みの中で、お金が要るようになれば、予算の手当てを考えていきます。



▲市発刊の「くらしのガイド」

総合計画を検証する

山本 秀男 議員

答 広島湾構想及び津久茂架橋構想は粘り強く要望

次期総合計画の策定に向けては、現計画をしっかり検証したうえで、市民の声も伺いながら実効性の高い計画にしていきたいと考えています。

山本(秀) 江田島市の将来に向かって、夢、希望のある施策を考えて頂きたい。それは広島湾構想及び津久茂架橋構想です。この構想の進捗状況は。

市長 江田島市の個性と魅力を育てていくための施策を推進し、その実現に向けて取り組んでまいりました。その中で、行財政改革は、一定の成果を挙げてきたと考えます。一方、人口減少については、住んでみたい、住み続けたいと思っていただけのような「海生交流都市」えたじまの実現という点では、道半ばにあると認識しています。

市長 県等には繰り返し構想の推進を要望してまいりましたが、厳しい財政状況等を理由に、前向きな回答を得られていない。しかしながら両構想が実現されれば、本市と周辺都市との共生・交流が

格段に向上することが期待されることから、引き続き粘り強く要望を行っていきたくと考えています。

山本(秀) 地域内道路の整備状況と課題は何か。

市長 県からの事務移譲により、一般県道(深江柿浦線)のほか、歩道は深江および宮ノ原地区で整備している。課題は県道「石風呂切串線」や「鷲部小用線」の県道や国道487号の拡幅については未着手の箇所があり、この促進が課題となっています。

るが、老朽化が激しく、全面改良の必要があるのでは。

市長 県に再三要望している。予算上、国道487号のなかで2箇所を改良している間は、困難であり、小用再開改良後施工を考えています。



▲江田島から広島を臨む